

第2回 第5期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

- 【日 時】 平成26年5月19日(月) 午後7時00分～9時20分
- 【場 所】 武蔵野クリーンセンター 3階見学者ホール
- 【出席委員】 阿部迪子 石川洋一 岡内歩美 加藤慎次郎 狩野耕一郎
(敬称略) 木村 浩 迫田洋平 田口 誠 竹下 登 中里陽一
西上原節子 能勢方子 花俣延博 古川浩二 山谷修作
- 【事務局】 大野課長 齋藤副参事他
- 【欠 席】 なし
- 【傍 聴】 3名
- 【配布資料】
- 資料1 武蔵野市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(平成20年度～29年度)について
 - 資料2 武蔵野市ごみ排出実態調査(概要版)
 - 資料3 武蔵野市のごみのゆくえ
 - 資料4 武蔵野市のごみ問題について
 - 資料5 第5期 武蔵野市廃棄物に関する市民会議委員一覧(確定版)

1 開 会

【委員長】

これから、第2回武蔵野市廃棄物に関する市民会議を開催する。

《前回欠席だった花俣委員・古川委員の自己紹介を行った。》

《事務局より、4月の人事異動によりごみ総合対策課に着任した齋藤副参事、前回欠席であった他職員の紹介を行った。》

2 議 題

(1) 前回会議要録の内容確認について

【委員長】

事前に皆様のところにお送りしているが、承認ということによろしいだろうか。

(一同承認)

(2) 武蔵野市のごみ問題について

《事務局より、武蔵野市のごみ問題について説明を行った。》

【A委員】

多摩地区の他市との比較はいつも聞いているが、多摩の全体から武蔵野市を比較するよりも現実的には武蔵野市に隣接している市・区との違いを詳しく調べてはどうか。多摩地区の中でも東と西では違うような気がする。

【事務局】

確かに環境や生活条件など色々なことを考えると、近くの自治体と比較するのが良いと思う。ただ、他の行政に関する施策でも、三多摩で何位かというデータは出ていて何かと比較される。前回配布した資料5の「武蔵野市のごみの現状について」には、ごみ収集量と種類ごとの比率について三鷹市及び西東京市と比較した円グラフがある。また、先ほどパワーポイントで説明した資料4では近隣市と比較するものである。近隣の自治体と比較してどうなのかということを検討するのが一番良いと考えている。

【委員長】

この近隣は比較のごみの原単位が非常に小さいところなので、そこと比較されるとなかなか厳しいところがあるかもしれない。

【副委員長】

フローチャートによると、燃やさないごみの行き場所として、破碎選別後に資源化と破碎選別後に焼却という二つの道筋があるが、最後は必ず資源化されるか焼却されるかのどちらかであり、直接埋め立てることはないのか。

【B委員】

燃やさないごみと粗大ごみは破碎機でばらばらにしてから、磁石の反発力で鉄とアルミを回収して資源化している。残渣については、以前は日の出町の方に埋め立てていたが、埋立をゼロにしようということで焼却試験での安全確認後、焼却を行い全て焼却灰にしている。その後日の出町のエコセメント化施設へ全て焼却灰として持って行っているため、武蔵野市については埋立をしていない。しかし、一部の市では燃やさないごみの残渣を埋立している状況なのでそれが限りなく無くなれば日の出町での埋立が無くなるということだが、今はほとんどがエコセメント化するという流れで落ち着いてきており、埋め立てる部分は本当に少ない。

【C委員】

(資料4の) 3ページの可燃ごみの内訳についていくつか。分別不適物が30%あるが、

これはたまたまチェックした中に 30%見つかったというだけでそのまま燃やしている状況なのか。(事務局うなずく) もう一つ、燃やすごみの組成を見ると、適正排出 70%の中に資源化できる生ごみが 40%あるが、これはいわゆる厨芥類という食品残渣のことを言っているのか。前回いただいた資料を読むと、武蔵野市ではこれをなんとかしないといけないと書いているが、ごみ資源の収集一覧を見ると、厨芥類を分別収集していないのでこれに関しては手を打っていないという見方をしてよいだろうか。減らさなければいけないものが 40%もあるわりには、専門に収集している様子がないので気になった。新クリーンセンターが稼働するまでにかなりごみを減らさなければならぬとなると、資源化できるものをどうやって資源化していくかということも考えていく必要があるのでは。

【D委員】

資源化できる生ごみの 40%というのは、適正排出 70%の中の 40%、つまり全体の可燃ごみ中の約 28%が生ごみであり、これは今資源化されてないので、資源化できる可能性のあるものだという意味の数ではないか。

【委員長】

そういうことだろうと思う。現状、受け皿を市の方では整備していない。

【B委員】

基本的にはおっしゃる通り、食品残渣だ。これは一定程度焼却する見込みで新クリーンセンターを作っているので、新クリーンセンターを作るから減らさなければいけないという議論にはなっていない。今後ご議論していただきたいところだが、都市の生ごみを別ルートで収集して処理するというのは非常に難しいと言われているので、現状では焼却をしている。姿勢として、できれば生ごみも何かしらの形で減らしていきたいというレベルだと理解していただければと思う。

【事務局】

どうしても市民の方に新たに分別をしていただいたり、別にルートを作らなければいけないので現実的には手を付けていない。

(3) 武蔵野市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(平成20年度～29年度)の概要と実績について

「事務局より、配布資料の確認を行った。」

「事務局より、武蔵野市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(平成20年度～29年度)の概要と実績について、説明を行った。」

【E委員】

資料1の2ページ目、温室効果ガス排出量の削減について、先ほどの説明の中で現状では目標の数値化を行っていないので環境政策課との調整ということをおっしゃっていたが、地球温暖化がずっと言われており、環境政策課もかなり取り組んでいると思う。その中で目標値を設定するのかどうかについては、この会議で討議すべきものでもないと思う。環境政策課とごみ総合対策課で十分に話し合いをしてどういう方向付けにするか出していきたい。そうすれば話し合いがスムーズに進むと思う。

【委員長】

自治体によっては出しているところもある。

【E委員】

できるのかできないのかもあるので、どのように考えているのか。

【事務局】

環境政策課の方と連携をとりながら、出せるものであれば設定をしていきたい。

【委員長】

カーボンニュートラルなどもあるので、試算してみるということもありうるのではないかという気がする。

【F委員】

資料1の3ページ目に「ごみ・資源物の発生抑制・排出抑制の推進」として主な施策が5つ書かれているが、先ほど中里委員がおっしゃっていたようにどの種類のごみを減らしていくという具体的な目標を持っているのか教えていただきたい。ここに書かれているのは、ごみを出す際の料金を上げることで精神的な面から促していく減量・排出抑制だと思うが、一度有料化をして効果も出ているので、次は資源化できる生ごみや紙類、レジ袋など具体的にどういうターゲットのごみを減らすのか、どんな議論が進んでいるのか知りたい。

【委員長】

家庭ごみの有料化や去年の事業系ごみ搬入手数料引き上げという経済的手法でかなり大きな減量実績が上がっており、それ以外にどのような施策が効果的なものとしてありうるのかというご質問だと思うがいかがか。

【事務局】

確かに、大きなカードは切ってきた。たとえば、資源物の有料化や収集回数の減少でなるべくごみを出さないような意識を市民の方に持っていただくということは考えられると思うが、市民全体に大きく影響するところなので、今後この市民会議の中で慎重にご議論いただきたい。今後どこをターゲットにしてやっていくかということはこの後の説明にも出てくるが、昨年度実施したごみ排出実態調査で見えてきたところもあるので、もう少し減らせる可能性のあるところについて市民の皆さんにご協力いただいてやっていく部分はまだあるかと思っている。

【委員長】

有料化の制度一つをとっても、排出容器（＝指定ごみ袋）を小さくしていくというのも一つの考え方としてあり、色々なことが考えられると思う。この会議の中でこれからも色々な議論をして色々なご意見を出していただけることだろうと思う。

【D委員】

基本計画を作るときに、ごみの量を何で捉えるのかということで以前は排出量だった。排出量というと、集団回収など市が直接扱わないものは除かれるということなので、家庭から出る発生量をまずはつかむべきではないかということ。もう一つはお金。効率良く使っていき、ごみ量だけではなくてお金自身を減らしていくことを対象にするというこの二つを入れてほしいと。それから数値目標を設定する際、10年経ってやる場合に計画上からすると一人あたりのごみ量を11%程度減らすという数字だったが、それは甘いのではないかということで「以上」や「以下」とついた経緯がある。現実にやってきて、もっと数字的には下がるものは下がっている。これから議論になると思うが、資源化率に関して、果たして資源化率をどんどん上げていくことが良いのか、疑問として提起した。一応、資源化率も上がっていくと目標設定値の数字は若干下がったと思う。結果的に資源化率があまり上がっていないことは少なくとも私から見るとこれで良いのではないかと見ている。それからお金に関して、廃棄物会計のように他の自治体との比較においては同じ基準でやらなければいけないということはあると思うが、たとえば18年度と24年度というように年度ごとの比較をしてどうなのかということもあると思う。資料4「武蔵野のごみ問題について」7ページのごみ処理経費（平成24年度）に見合う18年度の数字を持っているので披露させていただく。百万円単位で言うと、収集運搬費は16億5,400万円、中間処理費は11億4,700万円、最終処分費は4億2,800万円、減量資源費は8,600万円、合計が33億1,500万円。時系列的に見ていくと武蔵野市では約2億4,000万円減っている。資源化費は増えているが、直営で収集運搬していたところを全面的に委託に切り替えたことなどから収集運搬費が顕著に3億円近く減っていたりと、そういう施策の中でお金が減っているという事実がある。

【委員長】

おそらくコストについて言えば、直営から段々と委託に切り替えたことがかなり大きかったと思う。

【D委員】

定年の方が出れば補充しない方針があるので、それはかなり大きい。一方、資源化をどんどんやっていくとその費用が増える面もあるだろう。

【委員長】

ここ数年を見ると、新たな資源品目を新たに分別収集を始めたということはない。

【D委員】

逆に焼却場の費用は今年度同じような数字になっているが、クリーンセンターの延命に随分お金をかけた時期があり、当時の数字を見ると非常に増えていた。新クリーンセンターを建てて我々が新しい計画を作った時に、これが動き出したらこの費用がどれぐらいになるというようなことまでできるだけ出してほしいと思う。

【委員長】

新たなクリーンセンターを整備するという事で、減価償却負担などがかなり重くのしかかってくるということはないのか。

【B委員】

減価償却分を入れるか入れないかについて、少しはあると思う。ただ、今の場合は入れていない。D委員が言うように、18年度と24年度は同じぐらいだが、この間は基幹整備をしたので相当増えている。MAXで言うと13億とか14億かけていた時もある。新クリーンセンターになると、20年一括して事業者任せの形ということと、技術的に開発が進んだことから運転コストがかなり安くなっていくのではないかと考えている。今後、私なりに新クリーンセンターのコストは出していこうと思う。

【委員長】

DBO、長期の包括契約でやるということなので、経費としてはかなり抑制されてくるということなのだろう。建設にかかわる費用や間接的な費用というのは、このごみ処理経費の中には出てこないという形でもよろしいだろうか。

【B委員】

そうだ。

【D委員】

もう一つ。この資料1の最後から2ページ目の「重点化する施策など」について。先ほどもその中で話があったかもしれないが、結局ここの主な施策というのをこの市民会議で今度の計画の中に項目として具体的に入れていくということがこの会議がやるべきことなのではないかという気がする。「チャレンジ 700」というキャンペーンがあったときにごみ減量協議会ができて、そこで実行計画を作るのかなということで1回目に会長を務めていくつか提言をしたが、実行計画までは考えていなかったようだ。今回は具体的に出てくると思う。実行計画がないと、結局は検証もできない。「計画の推進」には、進捗状況をチェックしていくという文言が入っていた。しかし、結果的には実行計画ができなかったために、実際にチェックはできなかった。我々のこの市民会議が一年かけて提言するのは、具体的な数字目標を出し、それぞれ生ごみや紙や容器など種類別に何をやってどのように減らしていくのかという実行計画。この市民会議の任期2年間の中で後半の半年はチェックするといっても結局は実行計画を作っていかなければできない。今まで色々提言をされてきたと思うし、これを立ち上げながら並行してコンサルや減量協議会のメンバー、そして職員にも入っていただき、一つのワーキンググループを作って進めていくということは是非検討していただきたい。それがなくて文字上だけで見た目は非常に良いが実際にはチェックもできない計画ということになる。委員の方も言いつばなしではなく自分たちがチェックしていくという責任を持ってやっていただきたい。

【委員長】

前回もこの点は強調されたことで、おっしゃるような趣旨を踏まえてこの会議を進めていくということにしたい。やはり、実効性のある施策を盛り込んで減量目標・資源化目標を設定し、それを実現していくということも、それをまたチェックしていくということも重要になると思う。

(4) 武蔵野市ごみ排出実態調査結果について

《事務局より、武蔵野市ごみ排出実態調査について説明を行った。》

【委員長】

家庭系ごみ一人1日当たり675gの内訳を推計したという調査で、こういう調査をやっているところはなかなか少ない。

【A委員】

ごみ排出実態調査の調査結果について、2,000人を対象にして867票の回答、回収率は43.4%ということだが、年代別の回収率というのは出ているのか。また、回収率43.4%というのは、おそらく関心のある人が回答を書くのだとすれば関心のない人が56%ぐらいも

いてこちらの意識調査はこれよりもさらに低いと見るべきなのだろうか。

【委員長】

この調査について、もう少し説明等をしていただきたい。

【事務局】

無作為抽出で18歳以上の市民から2,000名を対象としてアンケートを送った。これは年齢別の回収率については集計していない。

【D委員】

今言われたことからすると、581グラムという数字はこの105名について分類して出した結果ということによろしいか。

【委員長】

その通り。意識調査と原単位の中身の見極めは全く異なる種類の調査となっている。

【D委員】

581gという数字を出した調査で、たとえば1人世帯は105人のうちの19人で18%ぐらい。1人世帯が実際20%ぐらいでそれが65歳以上と20代・30代となると、40代から50代の間の人たちが抜けてるということになるのだろうか。普通は年齢別や全体の構成の比率に応じてそれぞれの比重が出て加重平均させて最後に平均が出るのではと思うが、このあたりの数字の出し方はどうなっているのかわからない。

【事務局】

おっしゃる通り、本来は世帯構成でやるもの。ただ、この調査で100世帯にお願いするのはかなり大変なことだった。実際には当初ご協力いただいた100世帯の中で単身世帯というのはほぼ高齢者の方のみであった。しかしそれでは世代別での相違がわからないということで現役世代の単身者を新たに募ったところ20代から30代に集中した。実際には単身と言っても40代や50代もおられるが、この調査においては65歳以上の高齢者と20代・30代のみだけであったので、あとは想定という形にしかなりえなかった。これは実践手法の問題になるが、100世帯にお願いすることだけでもかなり難しかったというところがある。

【D委員】

高齢者世帯がある程度つかめていて若い人が多ければ平均がぐっと下がるとすると、ここでつかんでいない中間の人というのは、全体の平均ということで581g程度は出しているのではないだろうかという見方でよろしいか。

【事務局】

そのとおり。

【D委員】

高齢者が多ければ相殺されるが、若い人が非常に多ければそれだけ平均が下がるわけだから、どちらかと言えば若者の多い武蔵野の場合は1人当たりのごみ量を出した時にむしろ他に比べると低くなる要因が多いのではないかと思っていた。他と比べた時にまだごみ量が多いのはなぜなのだろうか。

【G委員】

今のご意見に逆らうわけではないが、私が商売をやっていた時のデータからすると、顧客の割合が高齢部分にもものすごく多い。30年ぐらい前だと、ひょうたん型のグラフが出てくるが、ここへきてかなり下に膨らむ形が多くなってきている。調査をして数が出ているわけではないが、武蔵野市に居住されている方でかなり高齢者の方の一人住まい・二人住まい・ご夫婦住まいが非常に多いのではないかということを感じる。ここは固定資産税が非常に高いので、吉祥寺近辺の新しい1Kのアパートだと、家賃が約8万5,000～6,000円ぐらいになるのでむしろ単身の若い人は住みづらい。駅から離れると少し安くなるが、吉祥寺近辺や三鷹近辺の、駅から15分とか20分以内ぐらいの歩ける距離のところであると、かなり家賃が高い。アパートやマンションをお貸しになっている方からすると、固定資産税が高いからどうしても家賃を上げる必要があって値段が上がる。そのへんのところにも影響があるのかなというのをこのデータを見ると感じる。高齢者の方がごみの量が多いというのは、若い人の場合は会社に行くから家にいない分ごみが出ないというのがあるのかなと感じている。

【D委員】

高齢者と若い人とで平均したらもう少し減るのではという気もする。

【G委員】

武蔵野では、吉祥寺が住みたいまちと言われているが、外部から入ってくる若い客が非常に多い。吉祥寺のまちのデータからいくと約9割が外部から入ってきている客で地元に住んでいる客はわずか1割。その程度の割合でしかないのに、平日の場合は比較的地元の人が出てくるが、休日や土日になるともう大半が外部からの客。ぱっと見た瞬間、吉祥寺やこのあたりは若い人が非常に多いという感覚をとらえられるケースが多々あるが、実態としてこの吉祥寺や緑町近辺に住んでらっしゃる方は意外にお年寄りが多い。私も北町に住んでいるが周りは全部お年寄りで、80歳から90歳ぐらいの方が非常に多い。

【D委員】

武蔵野は多摩平均を出すと 60 g ぐらいの差があり、その差が一体なぜなのかはつきりわからなかったというのがあったと思う。このところ 60 g の差は残っていて、他が減ると同じように武蔵野も減ってはいるのでそういう意味では努力してるのかなと思っていた。今回の小規模事業所の調査について、今まで小規模事業所が 4,800 ぐらいあると聞いていたので、武蔵野は他に比べればごみ量も多くなる要因があるのかなと思っていた。これを見ると、調べた事業所数が 3,831 となっている。単純に年間排出量 1,619.5 (t) を 365 (日) で割ると 4,300 という数字が出るので、1 事業所 1 日当たり平均 1 kg 出しているということになると 4,300 事業所がごみを出していたということになるのでは。実際に対象となる事業所数は 4,800 と聞いていたのが 3,800 なのか、そうではなくて 4,300 なのか、そのあたりはどうか。

【事務局】

これは実際に今ごみを出している小規模事業所が 3,800 ということ。過去から現在にかけて登録いただいているのは 4800 事業所と聞いているが、実際に年間を通じて排出が確認されているところがこの数字ということで、これがほぼ実数。

【D委員】

そうすると、実数の 3,831 事業所が 1 キロぐらいずつ出しているという結論になるのか。

【事務局】

それは年間排出量の一番下、サービス業の 326.5 t とかに事業所数を掛け合わせるので、業態ごとのものを足し合わせていった結果が 1,619 になる。

【D委員】

三鷹はそのへんどうなのか聞いてみたら、3,000 ぐらいだというので 4,300 という数字だったらわかるなという感じだったのだが。では三鷹の 3,000 というのは登録されている数が 3,000 ということなのだろうか。

【事務局】

他市のことなのでわからないがそうだと思う。

【委員長】

時間になったが何か質問をしたいという方は。

【B委員】

G委員がおっしゃったことがキーワードになっていて、D委員との話に出たが、今回調査した中でだいたい7万世帯。1人世帯が3万7,000～8,000世帯、ファミリー2人以上が3万何千世帯ぐらいで半々となっている。人口比でいくと、単身者は3万7,000人ぐらいだが、2人以上の世帯の人口は10万人いる。人口比をやらなければいけないが、その中で単身の20代・30代がどのぐらいいるかというのを調査中で、多分2万人いるかどうかだと思われる。実は今回の調査で2人世帯と3人世帯で6万人いて、そこのごみ量が非常に多い。ということは高齢者の2人世帯はごみ量が多い可能性があるのではないか。若者が多いというよりも、高齢者が多くてごみが多いということが武蔵野特有なのではないか、というのが一つのヒントかもしれないと話を伺って思った。武蔵野はやはり高齢化率が高いので、そこから実はごみ量が多いのでは。今回、2人世帯と3人世帯のごみ量が670～680gあり、逆に4人世帯と5人世帯は400g代で少ないというはっきりとした差があった。2人～3人世帯もしくは1人で高齢者というのは9,000人いるが、そこが武蔵野のごみ量を多くしているのかもしれないというヒントがあったように思う。もう一度人口構成でやってみようと思う。高齢者が多いということがキーワードかなと。

【G委員】

武蔵野は長く住んでらっしゃる方多い。戦後ここへ移られたりしてそれがずっと続いてきて、今80歳から90歳になってきている。ダイヤ街のお年寄りというか前の世代の方は、組合員数が約86あるが、そのうちの約1割ぐらいが90歳以上。非常に高齢で中には今年100歳という方もいる。他の商店街の中でも結構90歳を超えてらっしゃる方が非常に多い。それはずっと住んでらっしゃる方が非常に多いんですね。他のまちに比べてどんどん変わっていくというそういうことではない。今まではアパートやマンションが今までほとんどなかったが、今は三鷹のツインタワーなどマンションが建ち始めている。それまでは13万4,000～5,000ぐらいの間をうろうろしていた人口数がやっと14万になってきたというのはそのマンションが増えてきた分だけ上乗せになってきたというのを私は感じる。

【委員長】

世帯人数という切り口に加えて、世帯数に関わらず年代別に出していただくと、新しい切り口として何か見えてくるかもしれない。

(5) 市民会議の今後の日程について

「次回日程は6月16日(月)に決まった。」

「7月については、配布した日程確認表をとりまとめて事務局で調整・決定する。」

(6) その他

【委員長】

何かあるか。(特になし)

3 閉 会

【委員長】

それでは、以上をもって閉会とする。

以上